2026 年度　中央大学国際経営学部

自己推薦入学試験

筆記試験（小論文）問題用紙

【注意】

・机の上に置けるものは、受験票とシャープペンシル、鉛筆、鉛筆削り、消しゴム、通信機能が搭載されていない時計のみです。

・試験監督の指示があるまで、問題用紙を開かないでください。

・解答は、すべて解答用紙に記入してください。

・試験終了後は、解答用紙のみ提出してください。

次の文章を読んで、以下の問いに答えなさい。

ヨーロッパの経済が曲がり角を迎えたのは1970年代である。二度のオイルショックとアジア諸国の追い上げにより、西ヨーロッパ諸国の産業は急速に国際競争力を失った。フランスでは、オイルショック後に失業率が10%に近づき、当局は移民政策に関して転換を迫られていた。

1981年におこなわれた大統領選挙に際し、現職の大統領であるジスカール＝デスタンは、テレビカメラの前で、失業者数180万＝外国人移民数180万という数字を掲げ、移民政策の転換の必要性を目に見えるかたちで打ち出した。旧植民地の人間を原則的に受け入れていた姿勢から、移民の原則禁止へと方針を180度変えたのである。

この転換は、移民の流れだけでなく、①フランス社会にも大きな変化を引き起こすこととなった。短期の出稼ぎのつもりでアルジェリアなどからやってきた労働者は、新しい労働者との入れ替えができなくなる反面、故郷の村々はかれらの送金を当てにする経済体制が成立していた。そのため彼らはフランスにとどまり、故郷への送金を続ける一方で、家族やフィアンセを故郷の村から呼び寄せるようになったのである。

このことは、それまでフランスの産業構造のなかに隠れていた移民労働者の存在を、社会のなかに可視化する結果となった。寮と工場のあいだを往復するだけであったかれらが、家族とともに社会のなかで生活するようになったためである。ただちに問題になったのが、フランス語を喋らない家族の受け入れであり、子弟の学校教育であった。フランス語を喋らないだけでなく、マジョリティと異なるイスラームを信仰し、生活習慣も行動パターンも異なるかれらをどのように受け入れればよいのか。そういう問題が表面化したのである。

フランスでは1970年代の後半から、外国人移民に対する暴力事件や人種差別の事件があいついで生じている。フランスはもともと移民に寛容な国とされており、アメリカ合衆国から来たアフリカ系の音楽家や芸術家は人種差別の少なさをしばしば感動をもって記していた。しかし、そうした寛容は、顕著な文化的差異をもつ移民が少数派であるときだけであった。自分たちの生活が移民のせいで脅かされていると解釈されるようになると、マジョリティはしばしば激しい敵対によって移民に対峙したのである。

（中略）

外国人移民の排斥の先頭に立っているのは極右政党であり、フランスで代表的なものに「国民戦線」がある。この政党の前身は、1970年代までは外国人に対して散発的に暴力をくり返

す人種差別的な暴力集団でしかなかった。実際、かれらに対するフランス国民の視線の多くもそのようなものであった。ところが72年に国民戦線を結成し、人類学の基礎にある文化相対主義で理論武装することによって、かれらは人種差別主義者とのレッテルから、より穏健な文化的愛国主義者としてのレッテルへの転換に成功した。この結果、北アフリカ系移民の姿が可視化された80年以降、かれらの支持率は急増したのである。

②かれらの主張はつぎのことにある。文化はそれぞれの価値をもつのだから、文化の差異は尊重されるべきである。各自が生まれ育った、あるいは両親から受け継いだ文化はその人間の身体のうちに骨肉化されているので、変更は不可能である。現在のフランスは、「本物のフランス文化」と外国人移民の異質な文化が併存しているので、混乱した状態にあるばかりか、相互の対話さえ困難な状況にある。それゆえ、フランスは「フランス文化」に同化不可能な移民とその子弟を出身国に送り返すことで、文化的純化を通じて社会と文化の活力を取り戻すべきだというのである。

（中略）

生活の質が脆弱化にさらされ、しかも政府が無力化しつつあるとの意識をもつ人びとの多くは、国境に代わる境界によって自集団の外枠を明確化した上で、そのなかに同胞と住まうことで落ち着きを得ようとする傾向がある。そのために活用されているのが文化であり、文化の壁を高く掲げることで自他の区別を絶対化し、他者に対する排除を強化してきたのである。伝統を強調し、外国人の排斥を主張する極右政党がおこなっているのはその極端な形態であるが、そこまでいかなくても、③文化の違いを理由とした排除の正当化は、ナショナリズムの高揚のかたちでヨーロッパ中を覆っている。

出典：竹沢尚一郎（2010）『社会とは何か』、中公新書、第4章「社会と文化―文化の名による排除から社会統合へ」118頁～156頁より一部抜粋

問１

本文の下線部①「フランス社会にも大きな変化を引き起こすこととなった」とは、どのような変化を指しているか。３つ挙げ、各 40 文字以内で箇条書きにせよ。

問２

本文の下線部②「かれらの主張はつぎのことにある」に示された主張には、どのような限界があると考えられるか。100 文字以内で答えよ。

問３

下線部③「文化の違いを理由とした排除の正当化は、ナショナリズムの高揚のかたちでヨーロッパ中を覆っている」とある。日本社会でも、外国人住民の増加により日常の接点が拡大し、その存在が身近に「見える」ようになってきた。この変化の中で、「日本人ファースト」という言葉が使われる場面が出てきている。この現状が生じた要因や背景を二〜三点挙げて説明したうえで、あなたが重要と考える課題を一つ示し、その解決に向けた具体的な対策を提案せよ。感情的な賛否ではなく、社会的な知識と論理に基づいて 600 字以内で記述しなさい。